

# 平成28年度 学校経営計画年度末評価



広島県尾道南高等学校

# 平成28年度 学校評価（年度末評価）

## 目 次

目 次 .....	1
平成28年度自己評価シート(年度末評価) .....	2
平成28年度自己評価シート(年度末評価まとめ) .....	5
平成28年度学校関係者評価シート(年度末評価) .....	6

平成28年度自己評価シート(年度末評価)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1 学びの改革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動し、思考力・判断力・表現力を高めることができる。							
生徒が見通しを持って主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業を行う。	生徒の授業満足度	73%	72%	74%	B	○振り返りシートによる授業満足度は74%で、目標値を越えている。 ○教育的な支援の観点から、各教科において教材や試験作成のための工夫・改善が行われた。 ○全職員を対象に、校内授業研究会を2回、公開授業研究会を1回、を計画どおりに実施した。 ○指導評価方法や成果、課題の共有化を図る実践に課題が残った。	教務部
体験学習を通して、他者と協働的に取り組む態度を育てるとともに、自己理解を深めさせる。	体験学習の肯定的評価	新規	67%	66%	B	○自然体験学習として、大豆づくりを計画し、種まきから収穫、豆腐づくりまでを行い、「作物を育てて食べる」活動を行った。	教務部
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	(1)自己管理能力の評価(生徒・教職員) (2)合理的配慮が必要な生徒の家庭・関係機関との連携回数	(1)81% (2)新規	(1)75% (2)9回	(1)生徒82% 教職員81% (2)24回	A	○全ての学校生活に波及する、養護教諭・非常勤講師・特別支援教育支援員・教科アシスタントを含めた、組織的、継続的な取り組みが功を奏した。 ○個別の合理的配慮を意識し、関係機関との連携を密にしたことが生徒の進路に反映している。 ○外部講師を招聘し、「確かな学力」を組織的に推進するための教職員研修会が実現できた。	教育支援

【評価結果の分析】

- 教育的な支援の観点に立った授業について、数年来継続して取り組み、各教科における教材作成や授業展開、試験問題、発問や言葉かけ等の工夫・改善の積み重ねが一定の効果となって表れている。
- 研究授業に対する意識が浸透し、体制として確立してきている。周到的な授業準備を行い、視覚的な支援や、具体物を使ったり、実験を行ったり、グループワークを行って体感する中から、生徒の学習に対する意欲や関心を喚起し、主体的に学ぶ力を育成している。
- 学校体制として継続した教育的な支援を構築していくために、本校独自の既存のスタッフ体制は必要不可欠である。
- 日常生活における個別具体的な支援が、生徒の社会生活・学校生活への対処・対応、生徒間の相互理解等に効果をあげている。

【今後の改善方策】

- 授業を行う上では、生徒にどのような力を身に付けさせたいのか。また、そのためにはどのような支援が必要なのか。生徒の主体的な学習に繋がっているか。生徒が達成感や充実感を得られるものになっているか。という視点を持つておくことが必要である。
- 各教科の取り組みとしては、評価・分析する観点や方法を研究していくこと、また、効果的な面や課題等について意見交換できる場を設定し、課題の共有化を図っていくことが必要である。
- 体験活動については、体験活動全体を見通した活動の提示と体験活動の振り返りを工夫することにより、自分を客観的・多面的に見つめ直す作業を積み重ねていくような活動を展開していく必要がある。
- 保護者連携・関係機関との連携が、生徒の進路保障や社会参加につながるようにするために、個別の指導計画・個別の支援計画やアセスメントを作成し、活用する。
- 気になる生徒の困難性を共有するため、必要に応じてケース会議を開催し、具体的な手立てや支援を学校全体で展開していく体制を再構築する。

達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
2 キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる。							
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	キャリア関係ワークシート 生活体験文の記録の中から生徒の成長を確認する	3回	3回	3回	A	○それぞれの学年において成長の段階がくみ取れる。また自己理解・他者理解・自己肯定感において自己を深く振り返り記録していた。 ○定時制生徒としての勤労観・職業観が個人の成長に多大に関与する生活体験文が74%であった。	進路 指導部
社会的・職業的自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	インターンシップ・ジョブチャレンジ・ジョブシャドウイング・キャリアガイダンスの実施回数	3回	3回	3回	A	○社会参加への不安や戸惑いを持つ生徒に視点をあて、ジョブシャドウイング～インターンシップの系統的な取り組みにより、就労継続支援に踏み切れた生徒が78%であった。 ○平均74%の生徒が就労しており、県内では高い数値である。 ○生徒の要望、本校の現状から積極的に高卒求人可能な会社を2社開拓できた。	進路 指導部

【評価結果の分析】

- 最も社会参加や就労に不安を感じている生徒の課題を解決すれば、全ての生徒に好影響を与えるという観点で、個別具体の困難性に着目し支援してきたことが成果を上げている。
- 進路保障をしていくために、生徒の課題を明確に掴む努力をし、関係機関を選択して、各関係機関とのタイムリーな連携が功を奏している。

【今後の改善方策】

- 正採用・アルバイト・パート・派遣社員・就労継続支援A型・就労継続支援B型・社会福祉制度利用というさまざまな社会参加のスタイルがあるので、生徒・保護者の意をくみ取った進路指導の在り方を今後も模索していく必要がある。
- 様々な校内外における体験を積むことが、生徒の成長につながるので、今後も本校独自の活動を模索し、創造していく必要がある。

達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
3 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる。							
集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。	休学者(復学者含む)及び中途退学者数の在籍生徒数に対する割合	21%	20%	22.1%	B	○「生徒指導にかかる規程」を基本に、指導の在り方を全教職員で共通に理解し、同一歩調で指導した結果、問題行動数(実人数)が昨年度と比べて大きく減少した。 ○1月末現在、休学者は22.1%になった。	生徒 指導部
生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。	生徒会行事等への参加率	68%	70%	67.8%	B	○生徒会執行部を中心に主体的・自発的に各行事の企画・運営等に取組んだ結果、生徒会行事の参加率が昨年度とほぼ同じ数値であった。 ○地域貢献活動は、11月に清掃活動を実施し、17名の生徒参加を得た。	生徒 指導部 (生徒会 企画運 営)

自他の命や人権を尊重するとともに、学校安全体制の整備を推進する。	学校生活改善アンケート「安心安全度」	新規	80%	99.1%	A	○2回目の学校生活改善アンケートを生徒・保護者を対象として実施した。 ○保護者の安心安全度の面では、肯定的な回答が目標を大きく上回った。	生徒指導部 (保健・健康指導)
----------------------------------	--------------------	----	-----	-------	---	---	--------------------

【評価結果の分析】

- 休学者の課題に関しては、休学に至る原因・背景である就労状況を改善するために取組むべき保護者及び会社との丁寧な連携が不十分のままになり改善できなかった。
- 生徒会行事の内容は、生徒総会 79.5%、遠足 48.2%、合同運動会 50.6%、選挙 68.8%、南高祭 66.2%で、特に、土曜日実施の遠足と合同運動会の参加率が約 10%低下している。土曜日実施で仕事を休めないために参加できなかったことも影響している。
- 第2回目の「学校生活改善アンケート」生徒集約では、「学校に行くのが楽しいですか」の質問に、「楽しい」が 18.9%、「まあまあ楽しい」が 41.9%の結果であった。60.8%の生徒が肯定的に考えている。(第1回の「楽しい」23.4%、「まあまあ楽しい」44.2%)また、保護者集約では、「学校に子どもを安心して通わせることができるか」の質問に、「安心できる」が 38.7%、「大体安心できる」が 61.3%の結果であった。(第1回では 62.3%と 35.8%)

【今後の改善方策】

- 全教職員で、再度生徒指導の目的を共通確認し、生徒実態を把握して生徒の課題や困難性等を明らかにしながら指導する必要がある。
- 今後も特別支援教育コーディネーター・教科アシスタントと協力したり、保護者・職場と十分連携したりする必要がある。
- 第2回目の「学校生活改善アンケート」は、今回はじめて生徒提出率が 100%となった。しかし、保護者からの回収率は第1回目の 63.9%から第2回目は 45.6%に下がった。通知表送付時に同封しての各家庭へ郵送し、3学期になって生徒を通じて複数回の協力を依頼した。次年度に向けてはこの回収率の向上が課題である。

達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
4 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う。							
家庭、地域、関係機関に向けて学校情報を発信する。	ホームページの更新回数	15回	24回	65回	A	○目標更新回数を大きく上回ることができた。ホームページの中を整理することもできた。	教頭 教務部 (広報)
家庭、地域、関係機関との連携を深め、生徒の自立心を育成する。	公開研究授業やキャリア教育研修会、米作り体験などの研修会や行事の実施回数	新規	6回	7回	A	○研究授業・公開研究授業・キャリア教育研修・大豆づくり等、実施回数が予定を上回り、成果を収めることができた。	全分掌

【評価結果の分析】

- 目標回数を大きく上回った。担当者を中心に組織的に作成にあたるようになったことが、この成果に繋がっていると考える。
- 各分掌が企画・立案した通りに実施することができ、生徒の自立心を育成することができた。

【今後の改善方策】

- 更新のノウハウは身につけてきているので、今後はホームページの内容や使いやすさについて考察する必要がある。
- 今年度同様計画的に実施を考え、それぞれの内容を充実させる必要がある。
- 達成目標と評価指標が一致していないところがあるので、来年度は評価指標の改定を図る必要がある。

## 平成28年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-----	-----	----

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

- 教育的な支援の観点に立った数年来の取組が成果となって表れ、特別支援教育支援員や教科アシスタントとの連携による授業は、生徒が主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる上で、大いに成果を上げることができた。
- 研究授業に対する意識が浸透し、体制として確立してきており、内容にも様々な工夫が施され、成果を上げることができた。
- 生徒の悩みや不安に対して、組織的に丁寧な取組を継続して行ったことで、生徒個々に対する具体的な対応を考えることができた。
- 社会参加や就労に強く不安を感じている生徒の課題解決が、全ての生徒の課題解決に繋がるという観点で取組んだことが良かった。
- 生徒の課題を明確に掴むために、関係機関を選択し、綿密な連携を行ったことが課題解決につながった。
- 全職員でベクトルをあわせて問題行動の未然防止に努めた結果、昨年度と比較して問題行動の数が大幅に減少した。
- 生徒会執行部を中心に各行事の企画・運営を工夫して行った結果、昨年度と同様の参加率をあげることができた。
- 安心安全度については好結果であった。生徒個々に丁寧に対応する職員の姿勢が結果に繋がった。
- 担当者がリーダーシップを発揮して、組織的にホームページの作成や更新にあたったことが成果に繋がった。
- 各分掌が企画・立案した通りに研修会や行事等を実施し、生徒の自立心を育成することができた。

## (2) 課題

- 授業に対する職員の共通意識を確立する必要がある。また、授業内容については評価や分析する観点や方法を研究し、それを相互確認する場面を設定し、協議する中で資質の向上や共有化を図る必要がある。
- 体験学習について、実施内容だけでなく体験活動の振り返りも含めて、見直しを図り、早期提案を行っていく必要がある。
- 個別の指導計画や支援計画を充実するために、アセスメント表等を利用して生徒の抱えている課題を今以上に共有する必要がある。
- 本校には様々な課題や環境条件を持った生徒が在籍しているので、生徒や保護者の意を汲み取った進路指導を行うことが必要である。
- 生徒に様々な体験を積み重ねていく必要があると考えるので、本校独自の授業や行事等を模索し、創造していく必要がある。
- 生徒が抱える様々な課題や困難性を全職員が共通理解し、特別支援教育の視点で生徒を支援していく必要がある。
- 授業や行事、生徒会活動等で、生徒が達成感や充実感を得られるような取組を考えていく事が課題である。
- 2回のアンケートを実施したが、保護者からの回収率が1回目よりも大きく下がったことが課題である。
- ホームページの更新のノウハウは身につけてきているので、今後はホームページの内容や使いやすさについて考察する必要がある。
- 達成目標と評価指標が一致していないと思われるので、評価指標の見直しを次年度までに図ることが課題である。

## 2 今後の改善方策

生徒の抱えている課題を早期発見し、職員全体で共有する。その後特別支援教育の視点を持って、生徒個々の特別な配慮を行い、組織的・計画的に具体的な取組を考えて実践する。この観点と今年度の取組の結果から、継続すべきことは継続し、次年度からは次の新たな取組を実施する。

- 新年度が始まる前に中高連携を行う。中学校を訪問し、新入生全員の情報を収集し、その情報を共有できる会議を開き、生徒個々に係る課題解決のための具体的な取組を考え、全職員で実施する。
- 学校全体の教育活動の見直しを図る。これまでの尾道南高校の良き伝統は継承・改善し、生徒が主体的に活動しあい、思考力や判断力、表現力など生徒の生きる力を育む支援ができるような教育活動を行っていく。
- キャリア教育や特別支援教育の充実を図る。学校体制の確立や教職員の資質の向上のために、外部関係機関との連携や先進校への視察を計画的に行い、必要な知識やノウハウを身に付けていく。
- 開かれた学校づくりを目指す。そのためにはホームページや、学校から家庭地域に発信する通信物の充実を図る。また、ボランティア活動等にも計画的に取組み、地域貢献をしながら、本校の教育活動を広く理解していただくことに努める。
- 特別支援教育支援員や教科アシスタント等、全ての職員が連携した支援体制を再点検し、組織的・継続的に取組む体制を確立する。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- これまでの取組を継続し、これまで以上に意識統一を図り、学校全体として課題解決に努める。
- 達成された目標は見直しを図り、新たな評価指標、目標値を設定し、その達成のための新たな取組を企画し、推進する。
- 数値に表れない課題を発見し、全職員で協議し、その課題を分析して課題を克服する組織体制を確立する。
- 他校の優れた実践を学んだり、IT機器の導入を考えたり、先進的な取組により個々の状況に応じた教育の工夫を施し、その成果が他校の取組になるような実践を行う。

## 平成28年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 29 年3月 24 日

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高 坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理 由・意 見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、尾道南高校の役割を認識して、高い責任感を持って目標を立てられていると思います。</li> <li>・学びの改革を踏まえた、新規の達成目標を設定されるなど、実態をもとに学校体制として取組みをしていることがよく分かります。</li> <li>・生徒の多様な実態に即して、きめ細かな家庭や関係機関との連携が示された設定になっていると考えます。</li> <li>・目標を明確にするために数値化することが必要ですが、単に前年度と比べた数値目標だけではなく、公開されている他の定時制高校と比較できるような数値も取り入れることができれば、更によいと思います。</li> </ul>
目標の達成状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部で目標に対する評価指標を適切に設定し、具体的な状況を的確に把握して評価していると思います。</li> <li>・今までの南高校のよさを引き継いで、取組みを続けていることが意義深いと思います。数値だけでなく、実際の活動も踏まえた評価になっていてよいと思います。</li> <li>・結果としての数値をとらえるのではなく、生徒の実態を勘案した数値を指標として示して欲しい。例えば、生徒会行事の参加率を機械的に数値で示しているが、土曜日の開催で仕事の関係で最初から参加がむずかしい生徒がいると聞いた。このような生徒は全体から外して考えないと、実態が見えてこないのではないかと考えます。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒中心の高い志と専門的な情報を基にした実践を高く評価します。特に、特別支援教育や就労支援に力を注がれ、他機関と連携されていることは素晴らしいと思います。</li> <li>・学校全体で授業改善に取組み、授業満足度が目標値を越えたり、支援の充実を図る取組として新規の評価指標を設定されたりして、新たな取組みに挑戦している意気込みが伝わってきました。</li> <li>・目標の達成に向け、創意と叡智にあふれた実践が行われ、成果も上がっていると考えます。</li> <li>・「学校生活改善アンケート」の、保護者からの回収率を上げることが課題と思います。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや厳しめの感がありますが、全体としては適切な評価と考えます。</li> <li>・生徒が主体的に学ぶ意欲が高まると、授業満足度が下がることもある。振り返りシートを活用して、意欲や態度と、満足度をうまくリンクさせて評価結果の分析を進め、授業の改善と充実を図ってください。</li> <li>・今後、休学者や退学者などの分析に当たっては、背景の要因にも着目すると、さらに取組みの成果が正確に評価できると思います。</li> <li>・数値だけでは見えないこともあると思います。その見えない部分に課題が存在しているのではないかとと思うので、組織的な分析を心がけてほしいと思います。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく検討されています。</li> <li>・適切な分析に基づいて、改善策が立てられている。次年度にその改善策が生かされることを期待します。</li> <li>・自らが考え、実践していく生徒を育てるという目標を達成するために、教科と特別活動の領域が一体となった改善策が図られていて良いと思います。</li> <li>・保護者や職場及び関係機関との連携を進める必要性も示されており、適切であると考えます。</li> </ul>
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部が課題を焦点化して組織的に取組みを行い、成果が明確になってきています。</li> <li>・校長をはじめ、先生方の熱意に敬意を表すとともに、次年度の発展を期待します。</li> <li>・ミッションを実現するために、職員がお互いに研鑽と創意を重ね、共通した実践を重ねている。多くの課題を抱える生徒たちのために、今後も生徒に寄り添った指導を継続して下さい。</li> <li>・今までの取組みを継続し、施設・設備の問題や限られた人員配置の中で、多様なニーズのある生徒に対して、真摯に向き合い高い目標を挙げて、学校全体で取組みられた姿勢に対して敬意を表します。予算の確保が必要になりますが、教材や IT 機器の導入などにより、先進的な個々の状況に応じた教育の工夫を行い、その成果を他の学校へ発信して下さることを願います。</li> </ul>